

プリンターでの印刷の際は、Acrobatの印刷ダイアログで「実際のサイズ」を選択し、A3横・両面（短辺を綴じる）設定を行ってください。

対応機種一覧

エプソンホームページに2021年11月11日現在に掲載しているモデルを表にしています。表中にないモデルはホームページでご確認ください。

	インクジェットプリンター複合機	ページプリンター複合機	ドキュメントスキャナー
Document Capture Pro	LX-10050MFシリーズ、LX-10020MFシリーズ、LX-7550MFシリーズ、LX-6050MFシリーズ、PX-M7090FX、PX-M7080FX、PX-M880FX、PX-M7110シリーズ、PX-M860F、PX-M885F、PX-M381FL、PX-M380F	LP-M8180シリーズ	DS-32000、DS-970、DS-870、DS-790WN、DS-571W、DS-531、DS-310、DS-360W、ES-60W、ES-50、DS-70000、DS-60000、DS-50000、DS-7500、DS-6500、DS-5500、DS-1630、GT-S650
Document Capture Pro Server	LX-10050MFシリーズ、LX-10020MFシリーズ、LX-7550MFシリーズ、LX-6050MFシリーズ、PX-M7090FX、PX-M7080FX、PX-M880FX、PX-M7110シリーズ、PX-M860F、PX-M885F、PX-M381FL、PX-M380F	—	DS-970、DS-870、DS-790WN、DS-70000、DS-60000、DS-50000、DS-7500、DS-6500、DS-5500、DS-1630 ※DS-790WN以外はオプションのネットワークインターフェイスユニットまたはパネルが必要です。
Document Capture Pro Server Authentication Edition	—	—	DS-790WN

EPSON
EXCEED YOUR VISION

複合機にも対応。 業務ドキュメント用スキャナーアプリケーション

Document Capture Pro

フリーダウンロード



開発・導入支援ツールのご紹介 | epson.jp/products/scanner/developertools/

システム開発に携わる皆様に、簡単・効率的にエプソンのスキャナーをアプリケーションに実装していただけるようWindows®、iOS、Android™などさまざまなプラットフォームでの制御に対応できる各種開発ツールをご提供しています。また、スキャナーのインストールや設定に役立つ各種ユーティリティ、設定ツールもご用意しています。

開発

プラットフォームに合わせて選択できる5種類のツールを提供しています。



導入支援

Windows®の環境向けにスキャナーの導入に役立つカスタマイズツールを提供しています。



(注)：Windowsは、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。(注)：iOSは、米国およびその他の国におけるCisco Systems, Inc.の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されます。(注)：Androidは、Google Inc.の商標です。

エプソン販売株式会社 〒160-8801 東京都新宿区新宿4-1-6 JR新宿ミライナタワー29階 **セイコーエプソン株式会社** 〒392-8502 長野県諏訪市大和3-3-5

- ▶ GTシリーズのご購入を検討されているお客様
カラリオインフォメーションセンター
商品型番がGTから始まる製品のご購入をお考えの方に、製品に関するご質問・ご相談に電話でお答えします。
KDDIダイレクト 050-3155-8033 (1月1日および弊社定休日、弊社システムメンテナンスのためにご利用いただけない場合を除く)
※受付時間につきましては、エプソンのホームページをご確認ください。
※上記電話番号はKDDI株式会社の電話サービスを利用しています。上記番号がご利用いただけない場合は、携帯電話またはNTT東日本、NTT西日本の固定電話(一般回線)からおかけいただくか、042-589-5252までおかけ直してください。
- ▶ DSシリーズ、ESシリーズのご購入を検討されているお客様
購入ガイドインフォメーション
商品型番がDS、ESから始まる製品のご購入をお考えの方の専用窓口です。製品の機能や仕様など、お気軽にお電話ください。
KDDIダイレクト 050-3155-8100 月～金曜日(祝日・弊社指定休日を除く)
※受付時間につきましては、エプソンのホームページをご確認ください。
※上記電話番号はKDDI株式会社の電話サービスを利用しています。上記番号がご利用いただけない場合は、携帯電話またはNTT東日本、NTT西日本の固定電話(一般回線)からおかけいただくか、042-585-8444までおかけ直してください。
- ▶ フォトギャラリー・フォトセミナー(エプサイト) 東京地区：新宿
詳しくはエプソンのホームページをご確認ください。 epson.jp/epsite/
- ▶ ご購入は、お近くの販売店またはエプソンダイレクトショップでお買い求めください。
エプソンダイレクトショップ shop.epson.jp/ **0120-956-285**

電話のかけ間違いが増えておりますので、番号をよくお確かめのうえおかけください。

お求め、ご相談は信用とサービスの行き届いた当店へ。

仕分機能

白紙ページやバーコード情報を付記した仕切り紙をスキャン文書の間に挟むだけで、さまざまな仕分けを自動処理できます。白紙ページを挟んで保存先フォルダーを分けたり、バーコード情報をファイル名にすることもできます。

転送機能

読み取ったデータを指定したフォルダーに保存したり、メールに添付して送ったり、プリンターと連動して簡易コピー機のように使ったりすることができます。クラウドサービス*へ転送することも可能です。

*詳細は epson.jp/products/scanner/dcp をご覧ください。

自動実行

保存、仕分け処理、転送などスキャン後の一連の設定を「ジョブ」として登録することができます。「ジョブ」はスキャナー本体のボタンに割り当てることが可能。よく使う作業がボタンを押すだけで実行でき、作業の省力化・効率化が実現できます。

集中管理

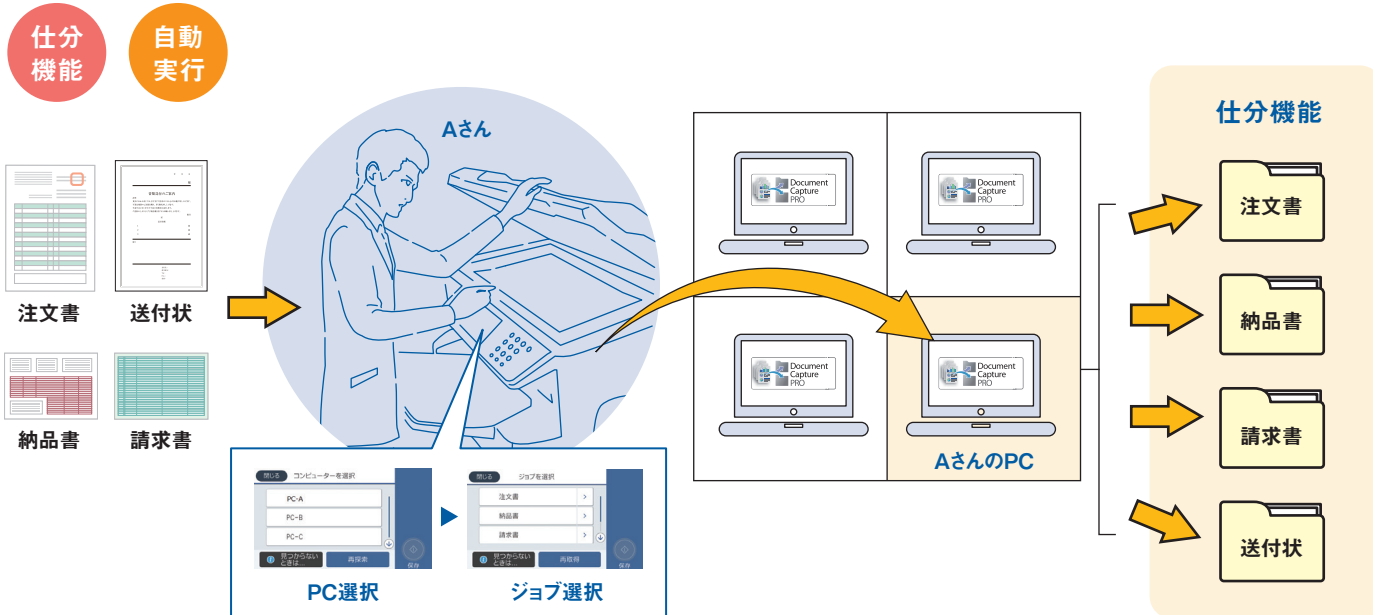
サーバー版は複数個所のスキャナーからスキャンしたファイルを集中管理することができます。同一機種を同時に稼働させることで、月末などに集中するスキャン業務時間を短縮も可能です。認証スキャン機能をサポートするサーバー版も選択できます。

小規模から大規模まで。多様な仕分と転送機能を無料で提供。



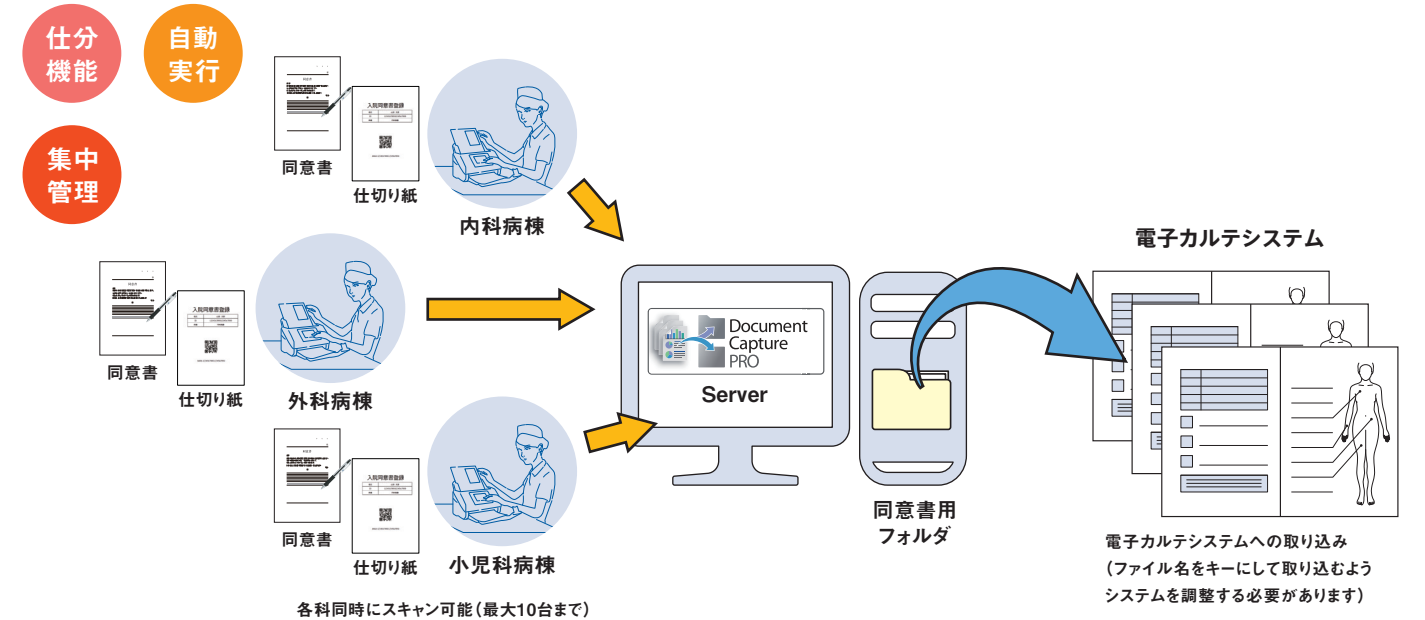
注文書、納品書などの書類をPCに電子保存

担当業務の書類をPCのフォルダーに分けて保存することができます。Document Capture Proであらかじめ書類ごとのジョブを設定しておきます。書類の種類ごとにジョブに名前をつけると便利です。(例えば、「注文書」「納品書」など)複合機から自分のPCを選択すると設定したジョブが表示されます。書類の種類にあったジョブを選択してスキャンすると設定したフォルダーにファイルが保存されます。



病棟のスキャナーからサーバーに送られたファイルを電子カルテに登録

Document Capture Pro Serverを使えば病棟にあるスキャナーで入院同意書をスキャンしてサーバーで集中管理できます。患者番号をバーコードで印刷した仕切り紙を準備しておき、患者様からサインをいただいた入院同意書と仕切り紙と一緒にスキャンします。PCの操作は不要で、仕切り紙のバーコードを読み込み、患者番号を含んだファイル名で入院同意書のイメージファイルをフォルダーに保存できます。



支店端末からファイル保存とメール送信で後処理依頼

スキャンしたファイルをデータセンター保存すると同時に本店担当者にメールを転送することができます。Document Capture Proが業務の流れをサポートします。お客様から本人確認書にサインをいただき、お預かりした免許証と一緒にスキャンするとDocument Capture Proがスキャンした画像をポップアップ表示します。画像を確認してOKボタンを押せばデータセンターにファイルが保存されると同時に、本店担当者にメールが送信されます。本店担当者はメールを受信することで、データセンターに保存されたファイルを参照しながら後処理をはじめることができます。



機密情報書類の電子化をICカードで実現

Active Directory®との連携も可能なDocument Capture Pro Server Authentication EditionとICカードリーダーを接続したスキャナーを使うことで機密情報書類を電子化して環境を構築することができます。個人情報を取り扱う人事部の書類の電子化には認証スキャンを提案します。人事部専用のフォルダーに保存するファイルは人事部員のみが使うことができる専用スキャナーを設置します。Document Capture Pro Server Authentication EditionにActive Directory®に登録されている人事部員を登録します。ICカードリーダーに社員証カードをタッチしないとスキャナーはロックしたままで使うことができないため機密情報書類を安心して電子化することができます。(注) :Active Directoryは、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

